

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL.2 NO1

昭和50年6月25日 発行
編集・発行人 松戸 節三

〒280

千葉市中央港1丁目10番1号

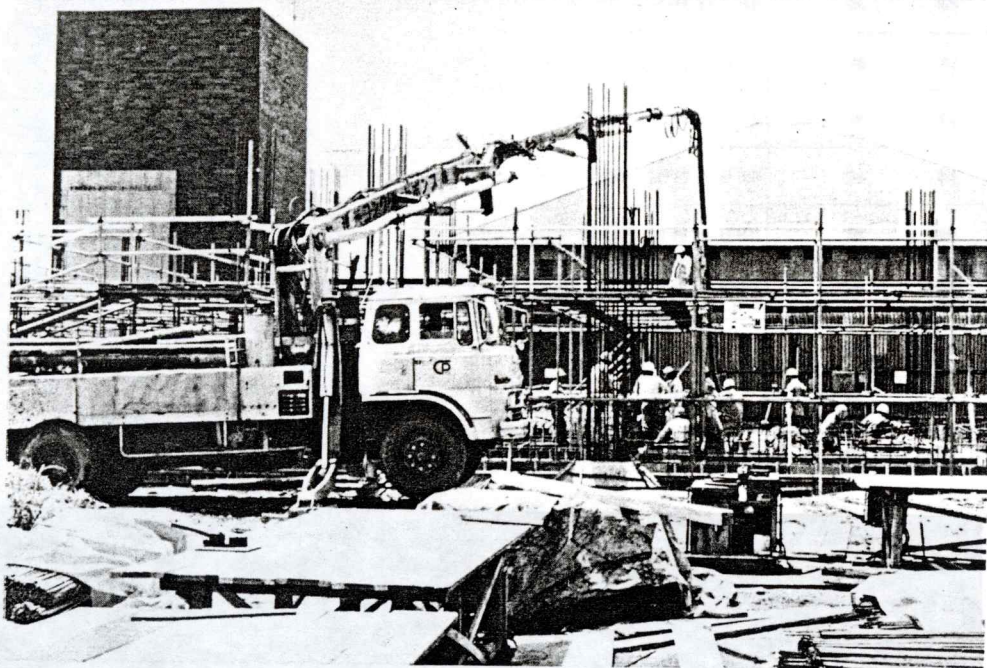
☎0472-42-8311(代表)



原 勝郎「森A」1955

第二期工事

管理棟建設始まる



建設進む管理棟

展示棟だけの美術館で、昨秋公開して以来、早期建設が望まれていた管理棟の建設工事が、去る二月から始められた。予定どおり進めば、五十一年二月には完成し、美術館の機能化がさらに展開する。

基礎工事がおわり、鉄筋型枠の組立中の管理棟は、総面積二、二七五平方メートル（約六八八坪）で、事務室・応接室・会議室をはじめ、学芸相談室・資料保管庫・資料準備室・消毒室・写真室・その他、資料の保全と奉仕の万全を期する上で、欠くことのない各室が整備されることになっている。

こうした管理棟が完成すれば、美術館建設計画の八三・六パーセントが実現することになる。残りは本館の個性である教育棟ということ目下、第三期工事として具体化をはかるため、予算対策が進められており、一日も早い全館完成が望まれている。

なお、第二期工事は着々進行しているが、展示棟の公開は継続中で、「近代フランス名作版画展」をはじめ、各種の企画展や、団体展の開催を平行させて、美の広場の活用を期待している。

観潮台

日曜などの余暇活用で、角川書店の『日本の伝説』を執筆しおわったが、むかしから各地に伝承されてきた伝説のなかに、意外なほど、杜寺の建築やその宝物にかかわる、工匠や仏師などの創作の苦心の物語の多いことを知った。

日本唯一の地獄芝居の鬼舞を継承している、千葉県匝瑳郡光町虫生の広済寺には、運慶作と伝える鬼面がある。

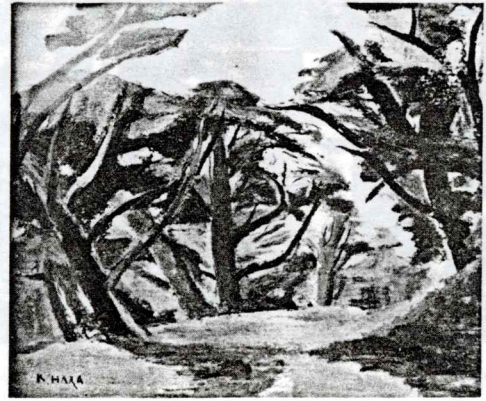
かねてから鬼面を彫りたいと念願していたという運慶は、ちようど鎌倉にいて、鬼舞の起源になった、地獄の鬼を見たという僧のことを聞くや、早速、広済寺にその僧を訪ねた。記憶のうすれないうちに、鬼の実感を詳細に聞きとったといい、こうして、いまもある鬼面を残したたといっている。

いわゆる伝説であって、どの程度史実を反映しているのか不明だが、とにかく、創作の前の徹底した観察、構想の時間が、仏師運慶にもあったことは想像できる（高橋在久）

原 勝 郎 展

近代房総の美術家たち

— 3 —



原 勝郎「森」 1955

『原は農家の生れですが、生れたままずっと変らなかつた人です』だから、その後半生は日本の山野を描いて倦むことがなかつたということなのか、それとも野人的な人柄のことなのか、のぶ夫人は一点にも及ぶ遺作の前でも絵についてよりは、勝郎氏の人柄や、交友関係について語ることが多かった。特に夫妻にとって第二の故郷とも言うべきパリでの生活については、昨日のことのように語るのがある。

「原勝郎展」の展示作品借

用のために、はじめて訪れた、のぶ夫人の経営する洋裁学院に隣接するアトリエは、勝郎氏が制作に励んだ当時のままに保存されていた。

原勝郎は、一八八九年（明治二十二年）千葉県山武郡山辺村大竹（現在の大網白里町大竹）に農家の次男として生れた。一九一一年（明治四十四年）葵橋洋画研究所を修了しているが、その後、一九一八年（大正七年）二十九才にして、知人を頼ってハワイに渡り、ホノルルで新聞に挿絵を寄稿し、ついで二年後、ロ

スアンゼルスに渡って葡萄園で働いている。国吉康雄の例に見られるように、自分で渡欧費用を稼ぐためであった。念願の渡仏を果たしたのは、一九二二年（大正十一年）日本を出てから四年の才月を経て、すでに三十三才に達していた。

気の早い天才肌の作家ならすでに生涯の傑作を作り終えて、中には夭折した画家もいる、年令である。原をよく知る友人が『暗闇から引き出した牛のような人柄』と評していたそうだが、画家としてのスタートも牛の歩みに以て、まことに悠々としている。

渡仏後は、パリのモンパルナス近くのペロニー街のアトリエ村に落ちついて、主にパリの下町や郊外を描きつづけた。当時のパリは、エコール・ド・パリの中期に当り、フォービズム、キュビズム以後の様々な芸術思潮の消長を当然見聞している筈であるが、性急にそれらを追い求めることなく、一市民として生活に根を据え、名声を求めずともなく悠々と自己の画風を完成させていった。明治以降、西欧絵画の新しい流派を学んで、その移入者としての栄光をバ

ックに日本画壇に名をなしてきたそれまでの風潮から言えば、サロン・ドートンヌやサロン・ザンデパンダン等に出品を続けたとは言いがらも、それ以上の名声を求めずともなく、滞欧期間を通じて日本画壇とも何のつながりを求めようとしなかった。

会場に展示された滞欧作三十四点（滞欧作の大部分は帰国の際パリのアトリエにそのまま残されてしまい、戦後再び訪れたときは、所在不明となつてしまつていたということである）構図、色調ともに、特に人目を引きつける派手さは見当たらない。描かれた画題はユトリロ風だが、色調は、暗い茶と緑を主としたもので、野暮ったさではドラゴン・スゴンザックに通ずるものがある。しかし、筆勢はむしろおだやかで、一見静謐な画面は、原独自のものである。

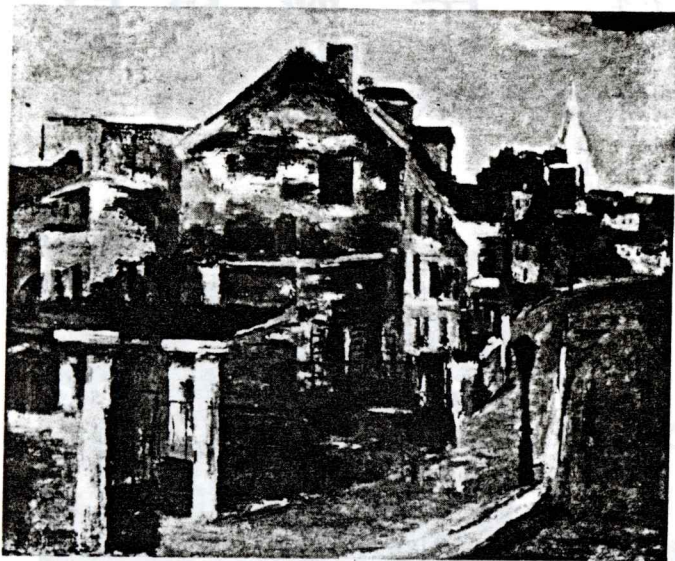
えのぐのつきは比較的薄手にもかかわらず、堅牢なマチエールと重量のある實在感によつて、本格的な油絵を鑑賞する醍醐味がある。

一九三九年（昭和十四年）第二次世界大戦によつてパリが、ナチス・ドイツに占領され、やむなく帰国することになつたが、もし戦争がなかったら、生涯パリを離れることがなかつたであらう。それ程パリに定着していたのに、戦後になつて夫人が再渡欧をすすめても応じなかつたそうである。その頃、すでに苦勞しながらも日本の風景の魅力にとりつかれつゝあつたからであらう。『日本の緑色はずかしい、しかし、これを描きたい、もう外国などゆきたくなくなつた』と言つて、渡欧に応じなかつたそうである。

帰国後も三年目になつて、ようやく日動画廊で催された滞欧作品展は、当時すでに戦時色の強かつた美術界の中でも、期待をもつて受けとめられたやうで、当時の個展評によると、

『今次のヨーロッパの戦争は、かなり長い間ヨーロッパで修業を積んで油絵の本格的な基本性を身につけた人達を帰朝させている。原勝郎もその一人として迎へ得たことを吾々は喜びとしてよいであらう。』

概してこの個展に見られるものはユトリロ風のものでありながら尚作者自身のものが、築きあげられているところに



原 勝郎「モンマルトル」1935

注目されてよいものがある。
こうした堅実な仕事を錬え
あげて来た人たちが、一人て
も多くなつたことに洋画の基
礎づけが真に要望されつゝ、あ
る時力強さを思わせてくれる。
作品は建物を主とした風景が
多く、そこに見られる堅実さ
は今後の日本の洋画家として
の発展を期待させている。殊
にユトリロ風とはいへ、臭味
のない所に今後に発展するで

あろうところのものを思わせ
るものがある」とある。
戦後、一九四八年（昭和二
十三年）さそわれて第二回新
樹会展に滞欧作を特別陳列し
翌年からは会員として参加し
ここが原の主な活動の場とな
つた。
帰国後の主な画題である
「森」「丘」など日本の自然
と取り組んだ作品群は、本館
の展示作品で見る限りでも、

滞欧作に比べて更に重厚さを
増し、湿気が多く、明暗が不
明確で重く沈んだ日本の風景
を、質朴な農民の心で誠実に
描いていて、見る人に安らぎ
と親しみを感じさせる。「見
せ場」を心得たテクニク過
剰の絵画や、時流に乗った新
奇な作風からは遠く、画壇の
主流からも遠ざかつていたた
め、華やかな注目を浴びる機
会はなかった。

戦後再渡欧し、パリで活躍
して高名になった画家や、戦
後の日本画壇に新しい画論を
ひっさげて登場した同世代の
画家たちとは対比的に、その
後二十年近くをひたすら自己
の画風を変えることなく日本
の風景を描きつづけ、一九六
六年（昭和四十一年）七十七
才で没した。

翌年、高島屋で遺作展が開
かれ、代表作二十七点が出陳
された。その際の評によれば、
改めてこの作家の稀な資質と
その世評の不当さについて述
べられている。

昨年暮、神奈川県立近代美
術館で、夫人が愛蔵していた
ほぼ生涯にわたる遺作を整理
し「原勝郎展」を催したこと
によって注目を浴びた。

本館では、郷土出身の画家

として今回の展覧会を機会に、
夫人の好意による寄贈作品を
中心に、今後永くその顕彰に

つとめ、一人でも多く郷土の
人々に鑑賞して頂くよう努め
るつもりである。（佐藤 清）

特別展

近代フランス版画名作展

印象派から現代にいたる一〇〇年の歩み



マネ「ベルト・モリゾーの肖像」1872

この展覧会は、印象派から
現代にいたる一〇〇年間の版
画を一堂に展覧しています。

作品は、フランス版画の蒐
集では世界最大であるパリ国
立図書館版画室のコレクション
から選抜された粒よりの

傑作一八点で、その中には、

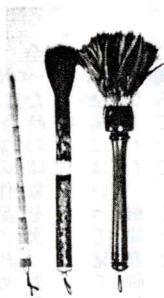
マネ、ピサロ、ドガ、ルドン、
ボナール、ゴーギャン、ロー
トレック、マチス、ピカソ、
ブラック、シャガール、ルオ
ーなどの巨匠の作品が含まれ
ています。

ヨーロッパでの版画の出版
は、十四世紀末から十五世紀

《美の根》

筆

書道の場合「筆」それは決定的な役割をはたす。極端な言い方をするなら筆が字を書くのである。長・短・太・細による相違は勿論、動物の種類や、はえているところによって全部性質が異なる。この性質によって表現されるものは



夫々異なつてきやうというものである。

筆はいつたい何種類くらいあるのだろうか。羊、山羊、馬、鹿、犬、猿、猫、兎、狐、狸、てん、りす、いたち、鼠、鶏、水鳥等々、人間の毛もあり、竹、草、藁もある。それ

に筆は全部手造りである。現代でも機械では出来ない。従つて造る人によつて微妙に違つてくる。値段も百円未満のものから十数万円のものまである。

書く目的にあわせて筆を選ぶ。それは恋人を捜すようなものだ、見かけより良いものもある。或るときふと人間が筆に使われているのではないかと思つたりする。

福田義州

初めと考えられています。初期の頃は、宗教画やトランプに適用され、しだいに普及していきました。十七世紀には、リユーベンス、レンブラントらがエッチングを流行させ、ゴヤがそれを受け継いで黄金時代を築きました。

今回の名作版画展では、このようなヨーロッパ版画の流れの中で、フランスの巨匠たちが、版画に対して如何に興味を抱いていたか、あるいは版画を単なる複写の手段としてではなく、それ自体油彩画などとは違つたひとつの表現法として考えていたか見てい

ただこうとするものです。たとえばシャガールは次のように言つております。「石版石や銅版を手に行っていると私は『護符』に触っているのだと思つた。私の悲しみと喜びのすべてをこの中に託せるように思つた。時の移ろいのなかで、私の人生を横ぎつて行つたすべてのもの——町や家や教会や空にあふれる生と死、結婚、花、鳥や獣、貧しい労働者、両親、夜の恋人たち、旧約の予言者たち——を」と。彼は、彼の心理をあますところなく版画の中に表現しております。その意味からも、こ

の名作版画展でも、特に注目すべき作品の一つと言えます。今日、版画は現代美術のなかでもグラフィックな手段による表現としてクローズアップされ始めています。このような近代版画を理解するにも、またとない良い機会といえましょう。

会期 六月十五日(日)から
七月五日(土)まで
入場料 一般二〇〇円
大・高生一五〇円
中・小生一〇〇円
(団体二十名以上、各五十円割引)
(前川 公秀)

新収蔵資料

●昭和五十年三月十五日
浅井 忠 作

「海辺の少女」朝鮮風俗図
「平議大同江練光亭」中沢岩太像「盤梯山の図」二点「風俗画」二点「男性裸像」「虎図」の十点

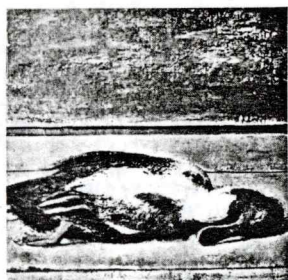
●三月二十五日
石井林響 作

「浦島太郎図」の一点
椿 貞雄 作
「鴨図」「山茶花図」「おこぜ」「かれい」の四点

なお、次の作品が寄贈されたので、ここに厚く御礼申しあげます。

●昭和五十年二月二十四日
宮田巖雄氏より
菅谷元三郎作「農婦図」一点
三月十二日

●三月十二日
都島成一氏より
都島英喜作「海浜風景」一点
五月十二日
岩崎巴人氏より
岩崎巴人作「闘う牛」一点



椿貞雄作「鴨図」



浅井忠作「男性裸像」



岩崎巴人作「闘う牛」

収蔵品紹介

八重子像

椿貞雄作

「八重子像」のキャンバスの裏に、椿貞雄の自筆で次のように書かれている。

千九百十八年八月末に故郷米沢の生家に於て妹八重子を描きしものなり。まる一ヶ月を要す、色々の点で自分の思ひの作なり。

当時自分は絶望しており、画筆をなげうつか、画家として立つか、わかれ道の上にいたり。この作は院展に出品したことあり。

千九百二十一年十二月十日書く 椿貞雄

このことから、この作品は椿が二十二歳の時に描いたものであることがわかる。最初草土社第六回展（大正七年）に出品された「酸漿」を持てる少女の肖像」と題されていたのがこの「八重子像」である。細部にまでわた

る克明な描写、あるいは物質感の表現方法といい、岸田劉生の影響が随所にうかがえる作品となっている。

椿貞雄は、明治二十九年二月十日、山形県米沢市に生まれ、大正三年に上京した。そして同年、たまたま劉生の個展を見て非常な感動を受け、翌年劉生の門をたたいている。椿は劉生の作品に初めて出会った時の印象を次のように述べている。

「会場にはいつて見て、僕は圧倒された。嚴肅真剣の氣に満ちていて、これだと心の底から感銘した。」

この頃、劉生はゴッホやセザンヌ等の後期印象派の影響から抜け出して、北欧のヴァン・アイクやデューラー等の写実を目ざしつつあった。これは劉生のうちに内在する写実の要求と同時に、武者小路実篤を代表とする「白樺」の人道主義の強い影響が、大きな要因となっていた。自然の一本一草にも無限の愛を感じ、その存在を克明に描き出そうとした。草や土というようになかった対象にも目を向け、その生命感を表現しようとしたことは、劉生の作画態度を

如実に物語っている。

こうした背景のもとで、椿自身大いに感化を受け、それは終生椿の芸術観の根底となっているのであるが、特に、草土社時代においては、劉生の精神が、そのまま椿の絵に顕著に反映されているようである。

椿は「油絵具をつかって日本精神を描くのだ」と言っていたそうであるが、これは劉生の次の言葉に置きかえられよう。

を、一個の人として、素なおに見なおす事は、今の世界の美術にとつて最も大切で最もむずかしい事だ。

「形はいくらくずしたって形だ。形だけで絵は出来ない。大切なのは心、内なる美だ。素なおな心で自然とその美を見よ。汝が日本人なら日本人らしい自然はひとりでに見えてくる。」

この事は目的ではない。結果だ。目的は只美にある。美を知れ。」



「印象派は如何にも西洋に生れそうなのだ。セザンヌは立派だが如何にもその審美はフランス人だ。」

絵の具の解き方から筆のつかい方、形やその他の描き方まで、セザンヌに似たり印象派に似たりしないとい叱られるのはどういう訳か。自然の美

この「八重子像」は、劉生が、長女麗子の像を描き始めた頃と時期を同じくして描かれたものである。特に、劉生の「麗子五歳之像」が大正七年八月下旬に描き始められており、「八重子像」の制作開始がこれと全く同じなのも何か共通したものを感ぜさせる。右手に酸漿を持った八重子を、透徹した細密描法で見事に描き出しているが、草土社時代の椿の画風を端的に表わしたものだと思ふ。

そして、画家として立つか

否かの重大な時の作であること、また椿自身、思ひの作と言っているように、この「八重子像」は椿の初期の作品の中でも最も力を注いだ傑作と言える。

椿貞雄は、草土社解散後、春陽会、大調和展、国画会等に作品を発表し活躍を続けた。北川桃雄は椿の画業について、こう述べている。

「氏の画家としての態度は人も知ることく、岸田劉生の草土社から生成して、草土社風のリアリズムを自分の個性で裏打ちして進んできたと言つてよいと思う。その意味では草土社を正攻法的に最もうけ入れて発展させてきた作家であらう。」

椿は昭和二年から昭和三十二年十二月二十九日に没するまで船橋に住んだ。船橋の小学校の図画教師、あるいは千葉県美術会の結成に尽力をし、また県の文化財専門委員として、主に絵画部門を担当した。常に千葉県の美術界の指導的立場にあった。

県教育委員会では、彼の没後昭和三十四年に、県教育功労者として表彰している。

（藤川 正司）

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館友の会
設立準備会開かれる



会費 個人

個人會員

年額 一、二〇〇円

贊助會員

年額一、〇〇〇円

但し、新入会者の個人会員の会費は次の通りです。

みる・かたる・つくる 千葉県立美術館友の会では、五十年年度会員を募集しています。「友の会」は、どんなでも入会できる美術を愛好する方々の自主的な会です。

会を通して、楽しい雰囲気の中で、美術を鑑賞し、語らい、創作などに参加する集いです。

四月入会者	一、	二〇〇円
五月入会者	一、	一〇〇円
六月入会者	一、	〇〇〇円
七月入会者		九〇〇円
八月入会者		八〇〇円
九月入会者		七〇〇円
十月以降		六〇〇円

昭和五十年千葉県

美術会総会開かれる

四月二十九日ニューナラヤ
八階特別室にて県美術会総会
が開催された。

当日、教育委員会を代表して市原文化課長の挨拶のあと議長に金子聴松氏を決定。議事に入る。

議案第一号 昭和四十九年

③ 第一回友の会の集いにつ
いて

④ その他

第一回友の会のつどい
・日時 六月二十八日(土)
午後二時より
・場所 千葉県立美術館

とかく、美術館という堅苦しいかきこまったようなイメージが強いので、広く美を通して気軽に交流がはかれる場、開かれた美術館として行うことで意見が一致した。

今後、より広く多くの方々

今後より広く多くの方々に参加してもらえよう、なごやかなうちにも活発な話し合いがなされ、第一回友の会の集いまでに P・R を積極的に行うことをもって会を終了した。

お申し込み等詳細は左記
にお問いあわせ下さい。
なお、申し込みは会場に
ても受け付けます。

連絡先

千葉市中央港一ノ

109

千葉県立美術館内

友の会事務局

☎ 0472(42)831

た

議案第四号 藤野会長、理事長の後任人事をはかり次の通り決定した。

名誉会長 川上紀一
会長 浅見喜舟

理事長 笹岡了一

事務局長 福田襄州

なお、今後会の運営の強化をはかるため、次の通り相談役も決定した。

(日本画) 立石春美 (洋

（彫塑）大須

員力 (工藝) 青木滋芳

（書道）千代倉桜舟

* 開館時間 午前9時から 午後4時30分まで
休館日 月曜日・国民の祝日・年末・年始
(展示替の期間中は休館)

昭和50年度 本館主催・共催展

展覧会名	会期	備考
近代房総の美術家たち - 3 - 原 勝 郎 展	4月20日(日)～ 6月8日(日)	無 料
特別展 - 印象派から現代にいたる 100年の歩み - 近代 フ ラ ン ス 名 作 版 画 展	6月15日(日)～ 7月5日(日)	大 人200円(150円) 大・高生150円(100円) 中・小生100円(50円) ()内は団体20名以上
千葉県立美術館収蔵品展	7月15日(火)～ 8月31日(日)	無 料
子どもの絵画展 第34回全国教育美術展	7月15日(火)～ 8月31日(日)	無 料
元禄風俗画展 - 特別公開「仮名手本忠臣蔵絵巻」 -	9月6日(土)～ 9月28日(日)	無 料
特別展 日本近代工芸の巨匠展	10月4日(土)～ 10月19日(日)	無 料
第27回県展	11月2日(日)～ 11月16日(日)	無 料
第7回千葉県高等学校芸術祭 美術・工芸・書道作品展	11月20日(木)～ 11月30日(日)	無 料
第20回子ども県展	12月2日(火)～ 12月14日(日)	無 料
近代房総の美術家たち - 4 - 石橋武治・若木山展	S51年 12月20日(土)～ 1月25日(日)	無 料
藤野天光遺作展	12月20日(土)～ 1月25日(日)	無 料
* 2月中は工事のため臨時休館 *		
特別展 浅井忠とその師弟展	3月2日(火)～ 4月11日(日)	未 定

団体展

展覧会名	会期	主 催
千葉二科展	6月14日(土)～ 6月22日(日)	・二科会千葉支部 ・無 料
千葉県書道協会展	7月13日(日)～ 7月20日(日)	・千葉県書道協会 ・無 料
千葉書壇秀抜展・現代書道50人展 千葉書壇新進展・現代書壇代表作展	7月22日(火)～ 7月27日(日)	・千葉日报社 ・無 料
第6回 観光絵画とポスターコンクール展	9月30日(火)～ 10月12日(日)	・千葉市観光課 ・無 料
第9回 千葉市観光写真コンクール展	9月30日(火)～ 10月12日(日)	・千葉市観光課 ・無 料
第22回 千葉県勤労者美術展	10月23日(木)～ 10月26日(日)	・千葉県労政課 ・無 料

日誌抄

50年4月～5月

四月

●六日 全日写連展終る。
入館者五五一五名。

●十五日 「原勝郎―近代
房総の美術家たち―3」
展始まる。一二一点展示

原のぶ氏(原勝郎氏未亡
人)来館
●二十六日 県民課制作映
画に美術館を紹介のため
撮影行われる。

●二十九日 当館副館長、
東南アジアの文化財視察
のため出発

五月
●十日 書道芸術院南関東
展始まる。三二五点展示

昭和50年度付けて次の職員
が着任しました。
よろしくお願いします。

庶務課 大堀幸則

井上和男

長島則子

石井秀雄

学芸課 渡辺真弥